

単元名 自分の意見(考え)をもつために、情報を読み取ろう。

教材

- 「モアイは語る 地球の未来」 (光村 二年)
- 「イースター島にはなぜ森林がないのか」 (東京書籍 小六年上)
- 「インスタント食品とわたしたちの生活」 (東京書籍 小五年下)

一 指導事項

- 第二・三学年 「C読むこと」 エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。
- 「言語事項」(1) エ 相手や目的に応じて話や文章の形態や展開に違いがあることに気付くこと。

※(新学習指導要領)

- 第二学年 「C読むこと」 (1)ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。
 - (2)イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」イ(才)
相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解すること。

二 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語事項
① さまざまな文章を読んで自分の考えをもち、生活に生かそうとしている。	① 資料や文章から読み取った事実や内容、表現の仕方を根拠として、自分の考えをまとめることができる。	① 相手や目的に応じた文章の形態や展開の違いに気付くことができる。

三 単元について

○ 本単元の指導事項として、第二・三学年「C読むこと」エ「文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。」があげられる。わたしたちの社会生活には様々な情報があふれ、いつでも必要な情報を手に入れることができる。そこで、それらの情報を正しく受け取り有効に活用することが必要であるといえる。また、受け取った情報をもとに考える、判断する、表現するなど、社会生活の中で「自分の意見(考え)をもつ」ことは大切なことであり、自分の生活を豊かにするために不可欠なことである。

本単元を通して、説明文を読むことが自分の解決したいテーマを追究していくための手がかりとなり、自分の考えの根拠となることに気付かせることができるであろう。また、「自分の意見(考え)をもつ」ためにも有効であると考ええる。

○ 生徒は、これまでに「クジラたちの声」や「文化を伝えるチンパンジー」等の説明文教材の学習を通して、「要約する」「事実と考察を読み分ける」などの学習活動を行ってきた。日頃から読書に親しむ生徒が多く、「自分の好きな本を読む」ことには興味を示すものの、説明文教材を読むことに対しては「難しい」「つまらない」と感じている生徒も多く、興味・関心が低い。また、感想や意見など「自分の考えを書く」ことに対して抵抗を感じている生徒も多い。そこで、説明文教材を読む新たな視点を与えることで、生徒の興味・関心を高め、さまざまな説明文教材を読む楽しさや有用性を実感させたい。

○ 以上の点から、単元「自分の意見(考え)をもつために、情報を読み取ろう」を設定する。指導に当たっては、国語で学んだことが国語以外の場面(社会生活)の中で活用できることを実感させるため、総合単元を構想した。国語を学級活動の時間と関連させながら、身近な話題(ここでは「食」)について情報を読み取り、考える場とした。

指導に当たっては、初めに、学級活動の時間に新聞記事を用いて、生徒に「食」に対する興味・関心をもたせる。国語では、内容や表現の仕方から説明文を読み解く方法を知り、読みを通して自分の意見(考え)をもたせることをねらいとする。そのための手だてとして、まず小学校の教材を用いながら、構成や表現の仕方等の「書き方の工夫」を習得させる。次に、その工夫が別の説明文(中学校の教材)でも生かされていることを自分で読み解かせる。さらに、身近な話題である「食」に関する説明文を読み、読み取ったことと自分の知識や体験を関連させ、自分の意見(考え)をもたせる。最後に、学んだことの活用として、学級活動の時間を使い、下級生(中一)に「食に関する提案」をさせたい。

【総合単元の構想】

<p>国語</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">習得</p>	<p>学級活動</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">活用</p>
<p>○ 説明文教材を読み、「書き方の工夫」を習得する。</p> <p>【読みの視点】 ○構成の仕方 ○表現の仕方</p> <p>○資料の活用の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「イースター島にはなぜ森林がないのか」 ・「モアイは語る」(教科書) <p>○【読みの視点】を根拠として、自分の考えをもつ。</p> <p>○ 「食」に関する文章を読み、自分の考えをもつ。</p> <p>【読みの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 相手や目的に応じた形態や展開の仕方 ・「インスタント食品とわたしたちの生活」 ・「世界がもし1000人の村だったら」 ・「食卓の向こう側」 ③たべもの編 	<p>「食」に関する記事を読み、自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事 「給食、こみをリサイクル」 「給食の食べ残し」 <p>下級生に「食に関する提案」を発信する。 (書いたものを学年掲示板に掲示)</p>

四 総合単元の指導計画・評価計画 (別紙参照)

五 本時 平成二十二年十月七日(水) 五校時 第二学年○組教室 (2/4)

1 本時の具体の評価規準・評価方法
自分の考えをもつために説明文を読み、わかりやすい表現の工夫を確かめることができる。

〈ワークシート②分析〉

2 本時の指導観

本時では、前時に「イースター島にはなぜ森林がないのか」を読んで習得させた説明文の「わかりやすい書き方の工夫」が「モアイを語る」でも生かされていることに気付き、それを根拠として自分の考えをもたせることをねらいとする。

そのために、まず「書き方の工夫」のキーワードを使い、前時の学習を思い出させる。次に、「モアイは語る」を個人で読ませ、書き方の工夫を見つけさせる。その際、付箋を準備し、工夫が見られる箇所に付箋を貼らせていく。さらに、グループになって個人で読み取った工夫を検討させ、その効果を考えさせる。ここでは、少人数のグループにし、一人ひとりが考えを出せるようにしたい。最後に、全体で「付箋を付けた箇所」を確認させる。その中で、新しく見つけた工夫に着目し、その効果について確認する。また、「モアイは語る」の書き方について自分の考えをもたせたい。

3 資料等

- ① 「モアイは語る」本文シート
- ② ワークシート2
- ③ 「書き方の工夫」ヒントカード
- ④ グループ活動用シート

4 本時の指導計画・評価計画

過程	学習活動・内容 [主な言語活動]	指導上の留意点	資料	Aの状況・Bの状況 [Cの状況の生徒への手だて]	形態	配時
導入	<p>1 前時の学習を振り返り、本時の目標を確認する。</p> <p>めあて 「モアイは語る」の書き方の秘密を探ろう。</p>	<p>○ 「アイスター島にはなぜ森林がないのか」で見つけた「書き方の工夫」を使って確認をする。</p>			一斉	5
展開	<p>2 「モアイは語る」を読み、「構成」「表現」「資料の活用」の三点から、書き方の工夫を見つける。 〈ワークシート②〉</p>	<p>○ 個人で読ませ、工夫が見られる箇所に付箋を貼らせる。 ・ 問いかけ ・ 写真 等</p>	③ ② ①	<p>A 既習の書き方の工夫に加え、新しい書き方の工夫が生かされていることに気付き、それを根拠に自分の考えをもつことができる。</p>	個人	10
	<p>3 個人で貼った付箋をもとに、グループで「書き方の工夫」について考える。 ・ 既習の工夫点 ・ 新しく見つけた工夫点</p>	<p>○ 三人前後の小グループにし、「グループ活動用シート」に付箋を貼りながら確認させる。</p>	④	<p>B 既習の書き方の工夫がこの文章にも生かされていることに気付き、それを根拠に自分の考えをもつことができる。</p>	グループ	10
	<p>4 全体で「付箋をつけた箇所」を出し合い、新しく見つけた工夫点とその効果を確認する。</p>	<p>○ 書き方の工夫がどのように生かされているかを確認させる。</p>		<p>Cの状況の生徒への手だて ヒントカードを使用し、前時に見つけたものと同じものはないか探させる。</p>	一斉	20
	<p>5 「モアイは語る」の書き方について考えを出し合う。</p>	<p>○ 『なぜ』モアイは語る』がわかりやすい文章なのか」を考えさせる。</p>			個人	4
まとめ	<p>6 本時の活動を振り返り、ワークシートに記入する。</p> <p>7 次時の予告を聞く。</p>	<p>○ 「三つ（構成・表現・資料の活用）の工夫に気付いたか」「なぜ』モアイは語る』がわかりやすい文章なのか」を確かめる。</p>			一斉	1

四 総合単元の指導計画・評価計画

指導事項 2・3年 C エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。

- 単元の評価規準
- さまざまな文章を読んで自分の考えをもち、生活に生かそうとしている。
 - 資料や文章から読み取った事実や内容、表現の仕方を根拠として、自分の意見をまとめることができる。
 - 相手や目的に応じた形態や展開の違いに気付くことができる。

配時	具体的評価規準 (評価の方法)	学習活動(言語活動)	指導上の留意点	(関心・意欲・態度) 期待する姿	(話す・聞く、書く、読む、知識・理解・技能)	
					十分満足できる状況【A】	おおむね満足できる状況【B】
学活	関:身近なテーマに興味・関心をもっている。	※ 「食」に関する新聞記事を読む。		・自分の体験と関連づけて資料を読んでいる。		
1	読:構成が異なる2つの文章を読み、わかりやすい書き方の工夫を習得することができる。 (ワークシート①分析)	1 学習のねらいや流れを確認する。 2 「イースター島にはなぜ森林がないのか」を読み、書き方の工夫を見つける。 【読みの視点】 ・構成の仕方 ・表現の仕方 ・資料の活用の仕方	○ これまでの説明文学習を振り返らせる。 ○ 書き方の工夫があるものとなしものを比較させ、違いに気付かせる。 ○ 文章中から例を提示して説明する。 ・ナンバリング ・写真 等		・書き方の工夫を自分で見つけることができる。	・提示された例を手がかりに、書き方の工夫を見つけることができる。
1 本時	読:書き方の工夫が別の説明文でも生かされていることに気付き、それを根拠として自分の考えをもつことができる。 (ワークシート②分析)	3 前時の読みをもとに、「モアイは語る」の書き方の工夫を読み解く。 個人→グループ→全体 4 「モアイは語る」の書き方について、自分の考えをもつ。	○ 個人で読ませた後、新しく見つけた工夫点をグループで交流できるようにする。 ・導入の工夫 ・具体例の提示 等 ○ なぜこの文章に説得力があるのか、考えを発表させる。	☆Cの生徒への手だて	・別の説明文で、新しい書き方の工夫を見つけることができる。	・別の説明文でも、前時に見つけた書き方の工夫を見つけることができる。
				ヒントカードを使用し、前時に見つけたものと同じものはないか探させる。	・「モアイは語る」がなぜわかりやすい文章なのか、自分の考えをもてる。	・「モアイは語る」がわかりやすい文章であることを理解できる。
1	読:読んだことと体験を関連させ、自分の考えをもつことができる。 (ワークシート③分析)	5 「インスタント食品とわたしたちの生活」を読み、自分の考えを書く。 6 自分の考えと筆者の考えを比較する。	○ 身近な話題を選び、興味・関心をもって読めるようにする。 ○ 筆者の考えは後で提示する。 ○ 筆者の考えの書き方を自分の考えの書き方の参考にさせる。		・内容を適切にとらえ、例示と根拠を正しく使いながら、考えを書いている。	・内容を正しくとらえ、自分の考えを書いている。
1	関:資料と自分の体験を関連づけて読み、考えたことを自分の生活に生かそうとしている。 言:相手や目的に応じた形態や展開の違いに気付くことができる。 (ワークシート④分析)	7 資料を読み、「食」に関する自分の考えをまとめる。 8 国語の学習のまとめをする。	○ 資料の引用の仕方と自分の考えの書き方を説明する。	・自分の体験と関連づけて資料を読んでいる。	・これまでの読みを生かし、「わかりやすい書き方」や相手や目的を意識して自分の考えを書いている。	・読んだことと自分の生活を関連させて、自分の考えを書いている。
学活	関:考えたことを生活に生かそうとしている。	※ 「食に関する提案」を下級生に発信する。	○ 書いたものを学年掲示板に掲示する。	・相手を意識して、自分の考えを発信しようとしている。		